

自然物おもちゃ

木蔭で遊ぶことから思ひつくのは草木の葉、莖、花などでいろ／＼の遊びも出来る。八ツ手の落葉で弓矢をつくり、朝顔の花で染め汁を作つて遊んだり、芋の葉などでいろ／＼のおもちやが出来て遊びに使へる。保母が落ちてゐる木の葉を拾ひあげ、何か幼児の前でよろこびそうなおもちやを作つてゐるのを見てゐると幼児たちも自然にこんなものについての關心が出来てきて、自分でも又いろ／＼のものをつくる様にもなる。又そんな目的でなくても單に幼児一同にいろ／＼と自然物のおもちやを作つてやつてもよい。ことに自然の中にしたしむ機會の少い都會の幼稚園では保母が心がけて、つとめて自然物で遊ぶやうな手技をとり入れて指導しなければならぬ。

誘導保育

菊池ふじの

五月から次々と誘導保育を試みて來ました。誘導保育は特別手がかゝるといふのではありませぬけれども、それでもその日その日出來上つたものを持つて歸るといふ方法よりは、全體としてのまとまりとか、個人の充實指導とか、或は個人の指導に當つて居る時の他の子供等への心配りとか、そう言つた心勞が要りますので、やはりかなり心的に重い負擔ではあるのです。

七月となれば暑さは暑し、午前半日だけの保育時間にもなりますので、かた／＼保母先生の息抜きにもと、今月は誘導保育の豫

定は致さないことにします。丁度七日の事變記念日があり、七夕祭りがあり、又第一學期最終の集りがありますので。

七夕祭り 栗の花咲く頃、あの笹の葉に綺麗な五色の色紙で、短冊や、着物等を拵へて、下げた頃の記憶が微かな匂ひをもつて蘇つて來ます。實際、人工的美麗の何物をも持たない田舎で育つたものには忘れられない行事の一つでせう、尤もこの七夕祭りは、地方によつては殆んどしない所もあり、名物として誇つてゐる所もありまち／＼ですが、行事そのものが幼稚園的であるせいか、民家では餘り見られないこの東京に於きましても、國民學校、初學年、幼稚園などでは、さ、やかながらも缺かますに實行してゐるやうです。

扱て、こういう時局になりまして、物の無駄といふことを極力避けなければならぬ時に、程度にもよりますが、いろ紙を相當に使ふこの七夕祭りをしたものが、それとも包み紙利用、厚紙利用などをしたる廢物利用の七夕祭りをしたものと、迷ひますが、それは各々の氣持によつて如何様にしてもよいことだと思ひます。色紙と廢物利用混淆も時局柄どうでせう。

短冊はいろ紙や無地の包み紙などで。吹流しはいろ紙で。あみはいろ紙包み紙、きものなどは厚紙を切つて、いろ紙で模様を貼りなどして。

そして色紙や短冊には、繪や字を書いて七夕様に上げると技術が上達すると昔から語り傳へられてゐることどもを話して、子供に出來る程度のことなさせる。姓名を書かせてもよし、兵隊さん有り難うと書かせてもよし、繪を描かせてもよし。

こうして出來た色紙、短冊、吹流し、着物、あみ、提燈(その他ふら／＼人形、星等何でもきれいなものは下げる)などに、こより

をつけて、子供等といつしよに笹に吊す。

今の世のやうに世の中があわたしくなること、子供中心の年中行事等はつい忘れられ勝ちになるものですが、こゝにいふ時世だからこそ尙更、子供の心にいゝうるほびとなり次代への傳統となる年中行事をおるそかにしないやうにし度いと思ひます。

期待効果、保育案に掲載してある通り、年中行事に對する興味、美感の涵養、手技といふ事に盡きると思ひます。

繼續時間、當日より三日位前より始め、この日が済んだらおしまひにします。

お話と唱歌の會

やがて第一學期も終らうとしてゐます。子供達を幼稚園に惹きつけやうと、入園以來ベストを盡してきた第一學期、馴れて來た亂雑の中にも何とかまとまりをつけやう、躰をしやうと努力して來た第一學期、少しくまとまりかけた幼児個人の能力を何とかして充分に伸ばしてやらなければならぬと努めてきた第一學期、それがやがて終らうとしてゐます。一學期の終りに際して、子供達が漸く親しみ楽しんでくれるやうになつたこの幼稚園を、いやが上にも楽しいところ、面白いところといふ印象を與へて、この幼稚園への魅力を、永い夏のお休み中にも忘れて呉れないやうに願ふ心でいつばいな保姆は、又こゝに楽しい集ひを工夫して子供等をすつかり惹きつけておかうと計畫致します。

先づ幼児達とプログラムの相談。形は相談ですけれど、保姆の心の中では豫めプログラムが出来てゐなければなりません。それを幼児達が自分で自分達の會を持つたといふやうな心持にさせ度い

爲に相談といふ形を取つて見るのです。そして子供達に言ひ度いだけを言はせて見ます。その中には、こちらが豫想しないであるやうなこともありませうから、そゝいふのは取り上げてプログラムのの中に加へる。併し、これ位の子供ではじつと室内に籠つて居られる時間といふものが割合に短いものですから、子供等を樂しませ度いの一念から、どうかすると盛澤山に過ぎて、あとが驟然、雖然と終らないやうに注意することが必要でせう。それから、こんなことは言ふまでもないことですが、今日、何かをさせるのは、組の子の全部にさせるやうにしなければなりません。併し、組の子供が一人々々別々にすると、餘り時間を取り、子供達が飽きて來ますから、同じことをする子供等五六人、七八人と組み合わせさせてさせることがいゝでせう。

先生のお話、何と言つても、子供等が一番親しみなつかしんでゐるのは受持の先生だと思ひます。是非受持の先生がお話をしてやつて子供等に満足を與へ度いものです。又子供等の大好きな人形芝居を一つ位して子供等を魅了しても見度いものです。幼児の吟誦、個人でもよし、全體揃つてもよし。

唱歌、遊戯、個人でもよし、四五人、七八人と組み合わせてもよし、或は男兒、女兒と分かれてさせてもよし。おはなし、子供等のすきすきにさせる。

なぞ〜

期待効果、人の前での發表の練習、人の發表を聴く態度の養成、又共に楽しむの心、と保育案に出て居ますが、その通りと思ひます。